るんるん　（ルンビニ園広報）

発行者　児童養護施設ルンビニ園　広報委員

平成２８年１月１日　第４２号

園長のつぶやき

明けましておめでとうございます。

今年は申年でございます。猿も木から落ちる、と言ったことわざもありますね。その道に優れた人でも時には失敗することがあるとの喩でしょうが、きっと慣れて甘く見てしまうと危ない、との戒めの意味もあるのかもしれませんね。かたや、災いが去るとのことで、申年は縁起が佳いと言われますが、災いは直ぐにやってきますから、悩むのですね。

昨年 10 月に、全国施設長研究大会が秋田県で開催されまして、二泊三日で参加してまいりました。二日目の分科会で、「自己肯定感を高める支援」という課題で討議が行われました。どのような展開になるのか楽しみにしておりましたところ、その中で、助言者でありました社会評論家の芹沢俊介さんが、「養育における善と悪」について触れられました。最善の養育は、「子どもが、今ここに自分が“ある”という存在の肯定」を養うこと。かたや、最悪の養育は、「子どもを“寄る辺なき状態”と言う不安の中に置き去りにしてしまうこと」と、“ピエール・フランソワ・ラスネールの回想録”等を用いて説明されたのです。ここでは、“ある”という概念を深く掘り下げて行ったのですが、さて、ルンビニ園の子ども達に、この“ある”の感覚が育っているのか、顧みながら胸中を複雑にしたものであります。

私たちは、日頃、何気なく善悪を語りますが、それは、ひょっとしたら自分をすべて善と捉え、自分の思い通りにならない他の人の行いを悪と捉えているのかもしれませんね。ある御方のお話に、「善人の家と悪人の家」というのがあります。次のように例えておっしゃっておられますが、善人の家は、お客さんが来られて玄関先でお茶を出し、客が帰った後も湯呑をそのままにしておいたところ、そこへ御主人が帰ってきた。湯呑に気づかずに蹴って割ってしまい、「誰だ、こんなところに置いといて。」と怒鳴った。すると奥さんは「気をつけてあがって下さいな。」と言った。さらにお婆さんが出てきて、「大事にしていた湯呑だったのに。」と言った。一方、「悪人の家」は、玄関先の湯呑はそのままで、やはり主人が帰ってきて湯呑を割ってしまった。すると、主人は「ごめん」と謝った。奥さんは「直ぐに片付けておけばよかった。」と謝り、お婆さんは、「怪我しなかったか。あの湯呑は古くなっていたから替え時や。」と言ったとのことです。善人の家では、それぞれが「自分は悪くない」として責任を転嫁しているのです。悪人の家では、お互いが「自分が悪かった」と責任を分かち合っている、と言ったお話です。

善人の家では、喧嘩が絶えないそうです。自らを常に善人としていますと、知

らず知らずの内に他の人を“寄る辺なき状態”にしているのかもしれません。「私が悪かった。」と直ぐに言える人間なのか、よくよく思いを巡らしていかなければなりません。今年も何卒、よろしくお願い申し上げます。

お釈迦様成道会坐禅会

去る１２月６日の日曜日、午後の２時よりルンビニ園の体育館において、恒例の成道会坐禅会が執り行われました。今回も、富山市蜷川の最勝寺ご住職の谷内良徹先生をお招きいたし、良徹先生から坐禅の作法を学び、加えて、お釈迦様がお説きになられたお話をいただきました。そのご法話の中身を、かいつまんでご紹介いたします。

和尚様（良徹先生）は、最も古い「御経」と言われている阿含経の中からお話をされました。お釈迦様の信者でありましたインドコーサラ国のパセーナディオ王とマリッカー夫人のやり取りのお話です。ある日、お城の高い塔の上で城下の雄大な景色を眺めていた折、パセーナディオ王がマリッカー夫人に、「そなたには、自分自身よりも愛おしいと思えるものがあるであろうか」と尋ねられました。しばらくして、「王様、私には自分自身よりも愛おしいと思えるものが見当たりませんでした。」と、マリッカー夫人は答えられました。もしかしたら王様は、王様自身を指してくれるのではと期待されたかもしれないけれど、マリッカー夫人は、自分自身よりも大切なものは無い、と思ったのでした。そこで、マリッカー夫人は王様にも同じことを尋ねました。「王様は、ご自分よりも愛おしいものがおありですか。」と。王様はしばらく考えられて、「自分自身よりも愛おしいものはない。そなたと一緒である。」と答えられました。しかし、これで良いのだろうか、と悩んだ二人は、お釈迦さまにその思いを打ち明けたのです。それを聴いたお釈迦様は、「人の思いは、どこへでも行くことができる。けれど、どこへ行こうとも、自分より愛おしいものを見出すことはできない。同じように、他の人々にとっても自分はこの上なく愛おしい。であるならば、自分を愛おしく思うならば他の者を害してはならぬ。」と、お説きになられました。自分ほど愛おしいものは無い、人それぞれに、そうであるがゆえに、他の人を傷つけてはならない。自分を大事であることを認め、さらに他の人も大事な存在なのであることを知ることが大切なのであります。自分を大事な存在として肯定し、また他の人も同じように大切な存在であることを肯定し、お互いを認めあっていくことが、仏教の教えの世界であります。自分が不満を抱けば、相手もまた不満を持ってしまう。自分の事が好きになれないで、他の人を好きになれようか。自分も含めたそれぞれが、愛おしい存在であったことに気づいていくのであります。

和尚様が大学を卒業されまして修行に入られた時、老師様の次のような言葉に出会われたそうであります。「礼拝（らいはい）とは、自分を拝むことである。自分を拝めるようになりなさい。」と言われましたが、意味が呑み込めなかったとのことです。老師様はさらに、「相手を通じて、自分自身の尊さを知ることなのであ

る。」と。これは、パセーナディオ王とマリッカー夫人がお釈迦さまにお尋ねになられた時の答えなのですね。

また、和尚様は「坐禅とは、自分自身に向き合うことである。心臓の動きが聞こえてくる。呼吸の響きが伝わってくる。手足が動くことに気づいてくる。坐禅を通して、様々な繋がりの中に自分と言う存在に気づいてくるのである。」と。さらに和尚様は、次のようなこともお話されました。「地球が誕生したその昔、地球が回転を始めると、アミノ酸ができ水が発生し海ができた。生き物が生きていける状態が出来上がり、生命の誕生をもたらし、その命を維持することができるようになり、長い年月と時間をかけて様々な種類の生き物が生まれ、今、私たちのような人間となり、道具を使い、協力をして生きていくすべを造り上げられてきた。そのような上に成り立った自分の命であることに気づくと、様々な犠牲の中にある自分と言うものに気づかされていくのである。ただ生かされているのではなく、また他をも生かしている自分であることにも気づき、尊き自分に気づき、周りのものも尊き存在であると思うところに、人の生きる不思議ないのちの尊さを感じ取らせていただくのです。」と。

「相手がいなければ、自分の存在もない。」と思わせていただいた時、本来の人間としての生き方に立ち返っていくのではないかと、私たちの心に働きかけていただいたところです。

―和尚様のお話を一生懸命に聞いております―

古代米の稲刈り

昨年の 6 月にルンビニ園の子ども達が、富山ライオンズクラブの皆さんと一緒に植えました古代米（緑米：もち米）の苗が見事に成長し、こんなに立派な稲になりました。タイワ精機第二試験田に育った古代米の特徴は、穂が黒っぽい紫色になっております。また、もみの数も少ないような気がします。普通の稲とは違いますが、腰は強くたくましい感じがします。

さて、この実った古代米の稲刈りが 10 月 24 日（土）の午前中、ルンビニ園の１１名の小学校児童の参加のもと行われました。富山ライオンズクラブの坂井義昭会長の開会のごあいさつに始まり、タイワ精機社長高井良一氏のご挨拶と柿下農場長の作業場の説明をお聞きした後、全員が圃場に入り稲刈りが開始されました。

当日は、とても青空に恵まれた気持ちのいい日となりました。お陰で、田んぼの土が程良く乾いており、作業のし易い日となりました。刈り取りが始まり、僅か１時間ほどで終了しましたが、刈り取った稲は、“はさ”に架けられたものと、コンバインでの脱穀されるものとに分けられました。コンバインでの脱穀体験では、稲の束を恐る恐る機械に入れている子どもの姿がありました。また、まだ機械化になっていない時代に行われた「せんば扱き」の体験も行われました。

作業が終了し、タイワ精機の社員食堂において、タイワ精機の高井会長さんからご挨拶をいただき、さらにタイワ精機稲作研究会の里会長さんより有機農業のお話をいただきました。最後に、ルンビニ園児童代表からお礼の言葉をお伝えし、

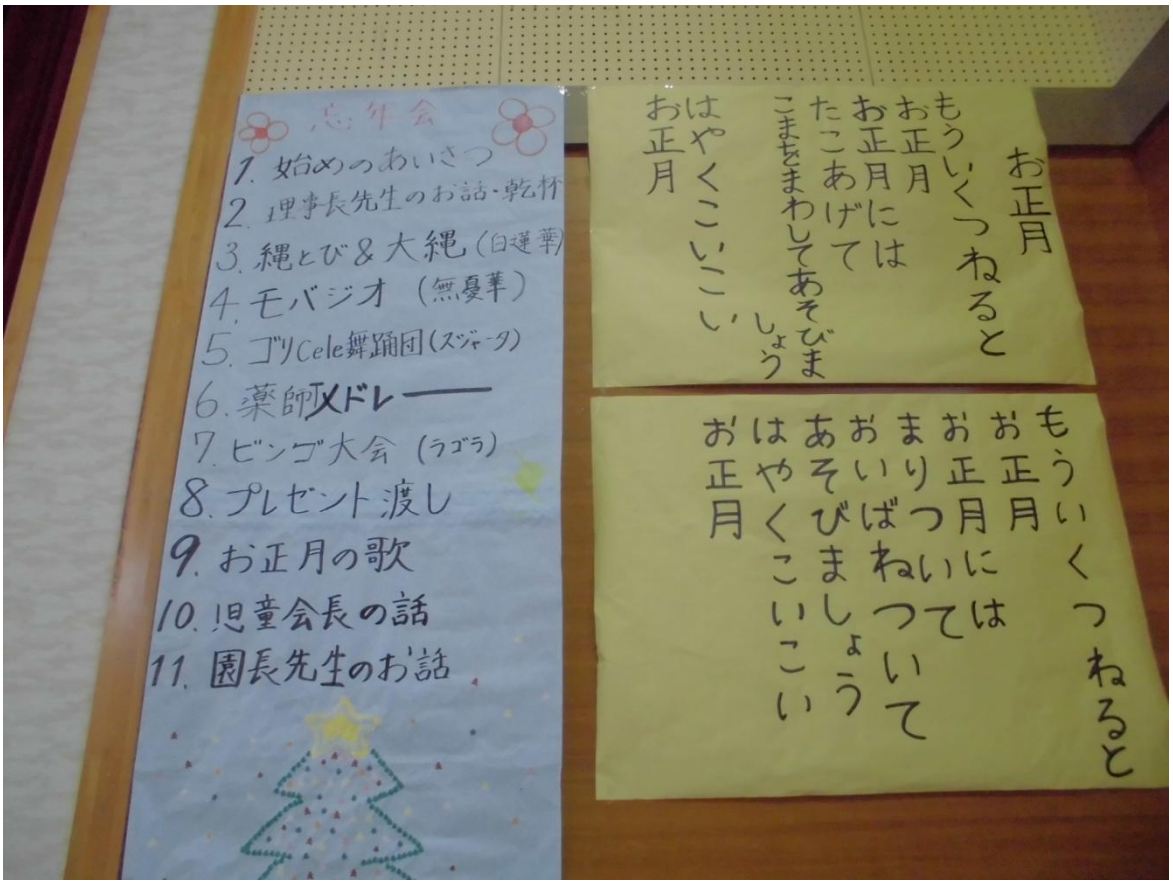
稲刈り体験は終了となりました。

忘年会（クリスマスパーティ）

12 月 24 日のクリスマスイブの日、ルンビニ園では恒例の忘年会が盛大に行われました。子ども達と職員が一堂に会して、ルンビニ園の体育館において楽しいひと時を過ごしました。

例年であれば、凍えるほどに寒く、ストーブの効果も薄く、がたがた震えていたものですが、今回はとても温かいのです。

それぞれのテーブルには、沢山の料理が並べられました。また、クリスマスケーキや鳥のから揚げなど、子ども達の好物ばかりです。また、温かくたっぷりのスープに身も心も癒されました。



パーティは、恒例の横川美奈さんとサンタクロースに扮した藤井サンタさんの入場で開始となりました。一人ひとりとふれあいながら子ども達に、大きな袋の中からクリスマスプレゼントを取り出し手渡してくださいました。子ども達の喜ぶ顔が、なんともたまりませんね。

　プレゼントが手渡された後、理事長先生からお話があり、「今年もみな良い子で頑張りましたね！」と褒めていただきました。

また、パーティが進行していく中で、富山トヨタ自動車社長さん並びに社員の皆さんの突然の訪問がありました。その中で、トヨタ自動車のヒーロー“ハイブリッド戦士クールマイザー”さんが、サンタさんの装いで登場してくださいました。そのサプライズに子ども達は、またしても盛り上がりを見せておりました。

クールマイザーさんから差し出されたクリスマスプレゼントを、ニコニコととても嬉しそうに受け取る女子高生です。普段なかなか見られない笑顔に、私たちも心が温まりました。

パーティは、約２時間で終了しました。「お正月の歌」が会場の全員で合唱され児童会長のあいさつで、なごりを惜しみながら27年の締めくくりとなりました。

―新しい年が始まりました―

新しい年を迎えました。皆々様のご支援により、今年も無事にスタートを切ることができました。誠にありがとうございました。

相澤吉彦様、相原昇明様、青木平様、朝永綾子様、浅野敬子様、アジア婦人友好会様、愛宕地区長寿会連合会様、安納スイーツファーム様、ＲＫＫ牛島支部法輪クラブ様、石坂善商店様、今枝厚子様、今枝隆子様、今田貴士様、岩亀煎餅本舗様、岩崎千鶴子様、岩瀬新吾様、岩瀬智子様、ウイン様、魚津市一日里親会様、魚津市少年補導委員会様、内川清様、ＮＹＣサンタクロース様、翁徳寺様、大井哲雄様、大江樹・ひとみ様、大沢野赤十字奉仕団様、大山赤十字奉仕団様、岡本倫子様、小川悦由様、大川原美樹様、織田ノブ子様、小幡常雄様、雄山高等学校家庭クラブ様、香積廣野神社様、加藤日出夫様、角島吉朗様、カナカン乾親会様、川口剛史様、川崎内科医院様、河路由美子様、かわもとまみ様、北川クリーニング様、北川製餡所様、吉祥院様、クアトロブーム小杉様、倉林啓子様、黒崎秀栄様、黒崎精孝様、けやき通りのぱんやさん Bell 様、耕隆庵様、小林ミドリ様、五万石様、斎藤正七郎様、西有寺様、坂口朱美様、笹岡達弘様、佐々木千歳堂様、澤井淳一様、賛粋会様、慈眼寺様、嶋田春江様、正覚寺様、性守寺仏教婦人会様、昭和電工ユニオン塩尻支部富山職場様、食と福祉と環境ネットワーク様、真如院様、新保校区社会福祉協議会様、翠十字会様、スダコー様、清源寺様、専光寺様、全国シャンメリー協同組合様、前名寺様、曹洞宗宗務庁様、曹洞宗東京都寺族会様、曹洞宗富山県宗務所様、曹洞宗尼僧団様、曹洞宗保育連合会様、早福美代子様、太平洋ランダム労働組合様、タイワ精機様、高野早苗様、田島英子様、ダスカジャパンクァウテモック様、舘紀子様、田中貴之様、タバタ商会様、誕生寺様、チュチュアンナ１％クラブ様、長澄子様、月岡校下教育後援会様、月岡校下社会福祉協議会様、月岡第六福寿会様、天真寺様、電通様、天徳院様、富山県医師信用組合様、富山県製麺協同組合様、富山県善意銀行様、富山県保育士会様、富山県麺類飲食業生活衛生同業組合様、富山市更生保護女性会様、富山市歯科医師会様、富山市仏教連合会様、富山トヨタ自動車様、富山ライオンズクラブ様、富山老人保健施設様、仲井研一郎様、ナカヰ自動車商会様、中沢義雄様、長澤正雄様、中田澄子様、中谷千恵子様、長田裕子様、中土キミエ様、中土康夫様、中村敏枝様、西嶋興様、日本鏡餅組合様、ノースランド様、萩野真一様、橋場勝弘様、ハシモトカバン店様、濱屋忠司様、早崎秀栄様、林修二様、原敏隆様、日枝神社様、広瀬哲夫様、ファインネクス様、フィリップモリスジャパン様、富果園様、藤井茂生様、藤原峯子様、フラワースクールまほうの手様、古河龍一様、宝積寺様、宝来様、北電神通分会様、北電富山火力発電所様、堀賢二様、ポコ・ア・ポコ様、ぽんぽこ村様、マエダック様、まちづくりとやま様、松井雅雄様、松井百合子様、松田由美子様、松永啓子様、まるごみ薩摩本部実行委員会様、まるたかやラーメン様、丸山富美子様、水上敏則様、みずほ銀行富山支店職員一同様、水本直美様、溝口信一様、三日市寛司様、緑の森建築工房様、村上聡様、村松直樹様、毛利和子様、森口千秋様、諸橋八郎様、薬王寺様、柳町校下天寿会様、山口康弘様、山崎歯科医院様、山村義弘様、山本勝重様、横川美奈様、横田こどもクリニック様、吉川洋子

様、理温工業様、良守寺様、ワールドメイト様、匿名の皆々様へ

～子ども達の生きがいある生活に大切に利用させていただいております～

合掌

おわりに

　昨年一年、なんとか無事にお届けすることができました。今年も励んでまいりますので、よろしくお願いいたします。皆々様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。